

1. 対象製品

キッチン用湯水混合水栓(台付シングル)

略称：CJK 水栓

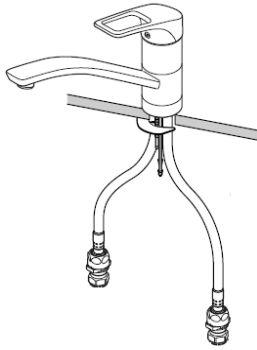


図1－台付シングル湯水混合水栓

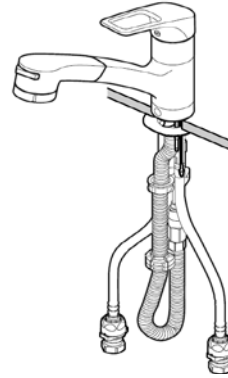


図2－台付シングル湯水混合水栓（シャワー型）

注記

対象製品代表例を
 図1、図2に示す。
 共通化の部位にお
 ける浄水器・食洗器
 対応水栓も含む。

2. 標準(共通)化の部位

キッチン用湯水混合水栓(台付シングル)の標準(共通)化の部位を図3に示す。

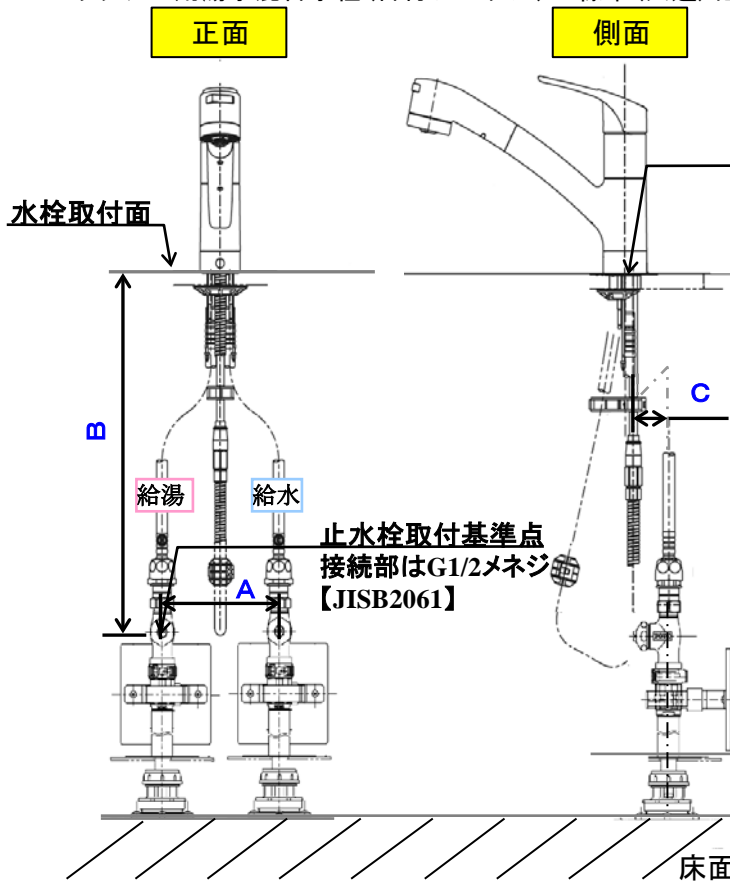


図3－標準(共通)化の部位口

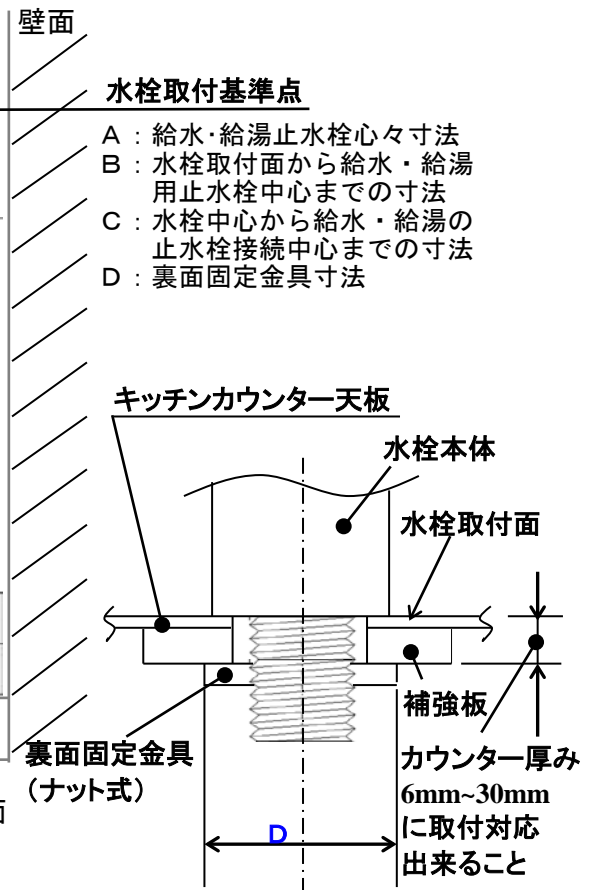


図4－裏面固定がナット式の場合

3. 寸法・形状

キッチン用湯水混合水栓(台付シングル)の標準寸法を表1に示す。

表1ーキッチン用湯水混合水栓(台付シングル)の標準寸法

項目	給水・給湯止水栓位置	
	中心振分けの場合	
A:給水・給湯止水栓心々寸法	190≦A≦210	
B:水栓取付面から給水・給湯用止水栓中心までの寸法	390≦B≦410	
C:水栓中心から給水・給湯の止水栓接続中心までの寸法	0≦C≦50	
D:裏面固定金具寸法(ナット式)	≦φ70	

4. 表示方法

住宅会社およびキッチンメーカーへの納入仕様書に該当部材が長期使用対応部材であると識別・判断できる様に”CJK”マークを表示する。

印刷物・電子媒体などに当該部材が長期使用対応部材であることを表示する。

5. 特記事項

5.1 関連部材の具備すべき条件

この基準書に合致したキッチン用湯水混合水栓(台付シングル)の取付部の標準(共通)化の部位を図5に標準寸法を表2に示す。

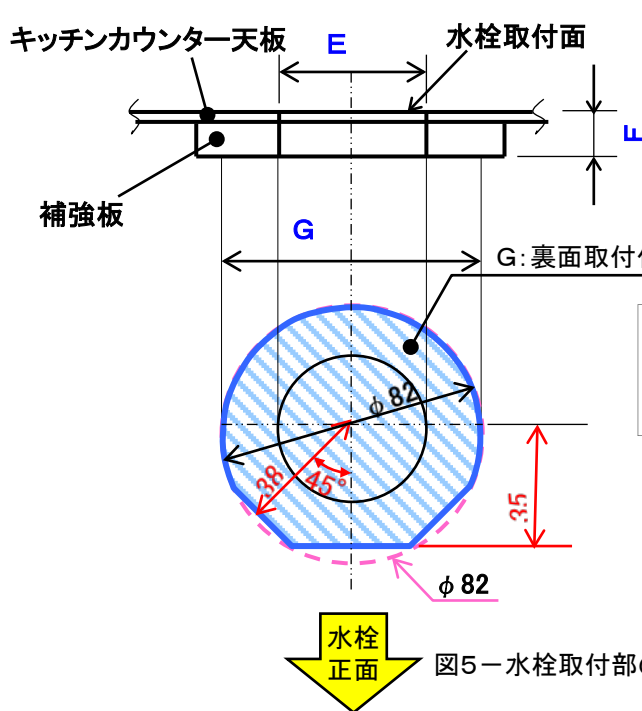


表2ー水栓取付部の標準寸法

単位: mm	
E: 取付穴径	$\Phi 35 < G < \Phi 39$
F: 取付カウンター厚み寸法	$6 \leq F \leq 30$
G: 裏面取付作業必要スペース寸法	図5に示す範囲以上

(注1)

水栓取り付け位置を中心としたφ82の円を基本として、水栓正面方向に35mm、水栓正面から左右各45度の方向に中心から38mmの位置で、Dカットした範囲とする。

図5ー水栓取付部の標準(共通)化とシンク裏面取付作業スペース寸法

5.2 水栓取付に関する条件

裏面固定金具は「F:取付カウンター厚み寸法 $6 \leq H \leq 30$ 」いずれの寸法にも取付可能であること。水栓本体下面と水栓取付面との間にはパッキン等で防水性を確保すること。

上面施工や馬蹄式の場合、裏面固定金具寸法は「G:裏面取付作業必要スペース寸法」の範囲内のこと。

注記 補強板については、水栓を締め付け固定するため、施工後の応力緩和が小さい合板(コンパネ)等の使用、及びG寸法以上のスペースを確保することが望ましい(図5)。

G寸法については、社団法人 日本バルブ工業会の標準寸法を採用した。

(2005年12月 制定)

6. 解説

本基準書では、各メーカー間、各機種間での水栓の取り替え互換性を確保するための条件をまとめた。シャワー無し型からシャワー型への取替えを可能にするため、双方の取り付け条件に対応できる寸法設定とした。

6.1 ピッチと施工寸法

a) C寸法については、次の2点に注意して設定した。

- 1) キャビネットの裏側寸法に左右されずに確実に取替え可能とするため、給水・給湯の止水栓接続中心までの距離は水栓取付中心からの寸法とした。
- 2) シャワー型の場合、シャワーホースが止水栓に引っかかり、操作性が悪くなることを防止するため止水栓接続中心より水栓取付中心が手前側となるよう設定した。

b) A寸法については、シャワー型水栓の場合、シャワーホースがスムーズに動くスペースを確保するため $200 \pm 10\text{mm}$ と設定した。ただし、この寸法を守れない場合は、図6を参照の上、給水給湯心々寸法を設定すること。

- 1) シャワーホースの無い台付シングル湯水混合水栓で給水・給湯の心々寸法が $200 \pm 10\text{mm}$ を守れない場合は、図6のグラフよりB寸法を読み取り止水栓位置を設定すれば、水栓の取替が可能になる。

【例】A寸法が、160mmの場合は、グラフよりB寸法を読み取り、410mmとして止水栓位置を設定する。

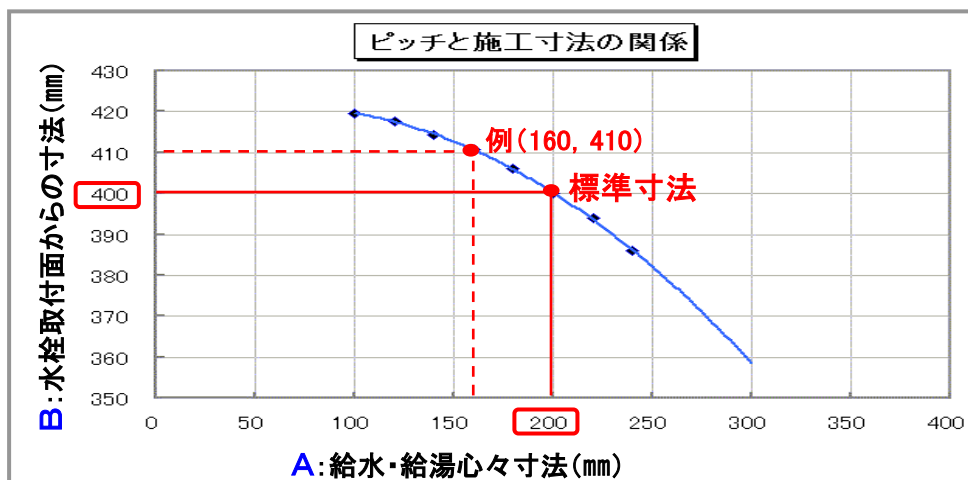


図6－水栓取付面からの寸法と給水、給湯心々寸法と施工寸法の関係

- 2) 給水・給湯を水栓取付位置の左右どちらか片方へ偏心されて取り付けられた場合を図7に示す。給水・給湯心々のA寸法を80～100mmとして取り出した場合、水栓取付中央から給水・給湯心々の中心までのH寸法が120～150mmの範囲であれば、水栓取付面からのB寸法は、 $360 \pm 10\text{mm}$ と設定できる。水栓の取り替えを考慮し、1)に記載の中心振分けの設定をした水栓と同一の水栓で取り替え可能となる様にした。給水・給湯配管が偏心した場合のH寸法とA寸法とB寸法の間係を表3に示す。

※従来の止水栓取付位置の実績を基に、H寸法の範囲として110～140mmまでの対応を要求されたが120mm未満では止水栓の位置が水栓の中心からの距離が75mmを切るため、キッチン口シャワーホースの止水栓への干渉が発生する。よって、H寸法は120mmからとして下記表の口内容で基準化する。

表3－給水・給湯位置が偏心した場合のB：水栓取付面からの寸法

単位：mm

H寸法	A寸法		
	$70 \leq A \leq 90$	$80 \leq A \leq 100$	$90 \leq A \leq 110$
120～130	$350 \leq A \leq 370$		—
130～150	$350 \leq A \leq 370$		

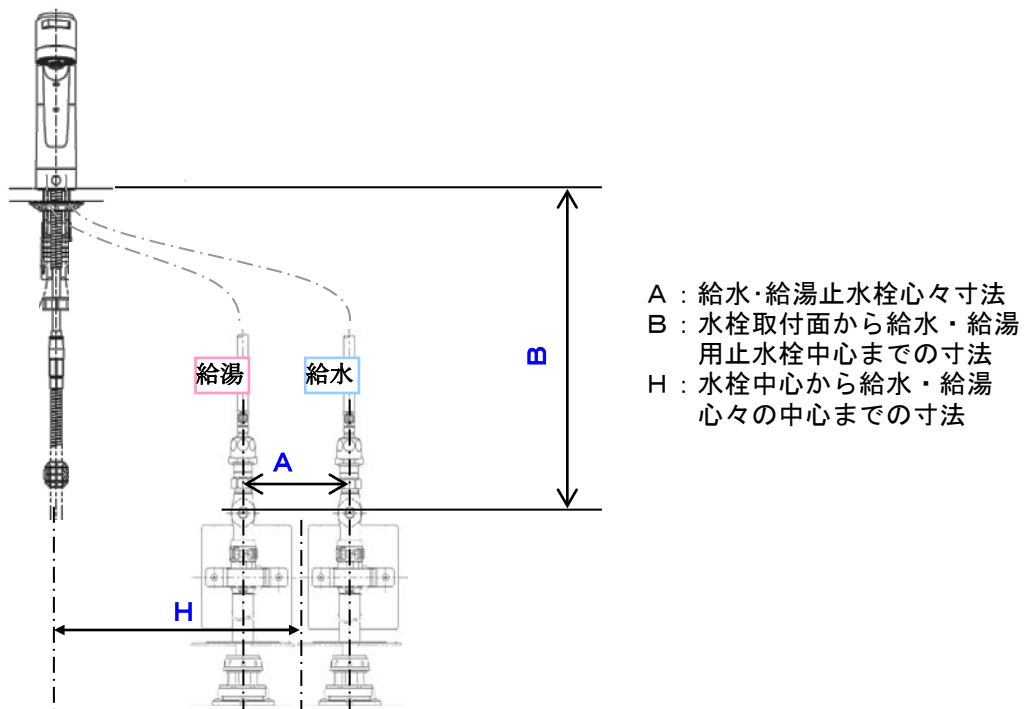


図7－給水・給湯止水栓が片側偏心の場合

C) I 寸法

旧 J I S B2061 で設定されていた寸法 (J I S B2061-1991 参照)

I 寸法は、30~35mm として設定した。

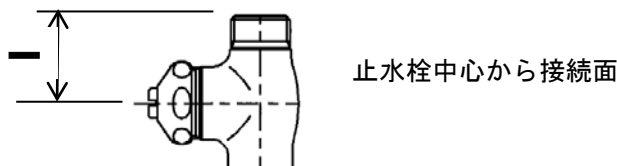


図8－止水栓の標準寸法

- d) 寒冷地用についても B 寸法は、一般地用と同寸法とした。寒冷地用では、止水栓中心部から□給水・給湯ホース接続部端面までの寸法が長くなるのが考えられるが、水栓のフレキシホース□により吸収できるレベルであるとして、一般地用と寒冷地用を区別しない事とした。
- e) 床給水タイプの給水、給湯配管を推奨する理由は、以下の内容による。
 - 1) 近年樹脂配管が普及してきている。□
 - 2) 床給水は施工時の高さ調整が容易であり、カウンター高さが変更になった場合でも□対応しやすい。
 - 3) 長住協の参加メーカーを調査した結果、樹脂配管・床給水を採用していた。□
 - 4) 止水栓は壁給水と床給水では異なるため、床給水用止水栓に一本化した。□
このことにより、配管の固定位置、固定用補強材の位置を標準化した。□
 - 5) 配管の更新の際、床給水の方が利点が多い。□

7. 共通事項

7.1 寸法について

- ・寸法は基準値を示し、公差・許容差を表すものではない。

7.2 交換について

- ・交換については、専門知識を有する者が行うことを推奨する。
※専門知識を有する者とは：専門知識、技術、経験を有する者である。

8. 改訂履歴

8.1 2016年1月28日改訂(2015年9月24日の長住協基準書改訂に併せる)

- ・ 7. 共通事項を基準書記載内容改訂にあわせ記載する
- ・ 符号、書式の統一、対象製品名称、略称見直しによる改訂
- ・ 2. 標準(共通)化の部位、図3の表記を改訂し、図4を追加する
- ・ 3. 寸法・形状、表1の記載内容を改訂する
- ・ 5. 特記事項、具備すべき条件の表記を集約する
- ・ 6. 解説項目を追加する
 - ・ 1. 対象製品、(注)を追加する

8.2 2016年4月26日改訂

- ・ 7. 1寸法について記載内容改訂